

## 生涯スポーツプロモーションの現状と課題：趣旨説明

北 村 尚 浩\*

スポーツ基本計画では、わが国におけるスポーツ推進の基本方針として以下の7つが挙げられており、それぞれについて今後の具体的施策展開が示されている。

1. 子どものスポーツ機会の充実
2. ライフステージに応じたスポーツ活動を推進
3. 住民が主体的に参画する地域のスポーツ環境の整備
4. 国際競技力の向上に向けた人材の養成やスポーツ環境の整備
5. 国際競技大会の招致・開催等を通じた国際貢献・交流の推進
6. スポーツ界の透明性、公平・公正性を向上
7. スポーツ界の好循環を創出

これらのうち「2. ライフステージに応じたスポーツ活動を推進」においては、「年齢、性別を問わず人々がスポーツを行うようにするとともに、既にスポーツを行っている者についてはさらなる実施頻度の向上を目指し、ライフステージに応じたスポーツ参加等を促進する環境を整備する」ことが政策目標として掲げられており、具体的な施策展開の一つとして「スポーツボランティア活動の普及促進」が挙げられている。

「7. スポーツ界の好循環を創出」においては、「次世代アスリートの育成と地域スポーツの推進や学校の体育に関する活動の充実等を目的とした、トップスポーツと地域におけるスポーツとの連携・協働の推進を図る」ことが政策目標として掲げられ、具体的な施策展開としてトップアスリートに対していわゆる「デュアルキャリア」の意識啓発とともに、アスリートのスポーツキャリア形成のための支援を推進することがうたわれている。

以上のことを踏まえて、わが国のスポーツ振興政策について、スポーツボランティア、トップアスリート、フィットネス産業、メディアのそれぞれが果たす役割と課題についてその概要を学習することを目的と

---

\*鹿屋体育大学生涯スポーツ実践センター長